



薬局・薬剤師のためのニュースメディア

# HARMACY NEWSBREAK

## 広がる「保険者連携プログラム」に取り組む薬局 地域住民の健康支援にどれだけ貢献できるのか

[ 2月22日 4:48 ]

中小薬局でつくる保険薬局経営者連合会（薬経連）系のシンクタンク、薬事政策研究所（薬研）が昨年からスタートした「保険者連携プログラム（HORP）」に取り組む薬局が広がっている。HORPは健康保険組合など保険者からの依頼を受け、プログラム参加薬局が被保険者らに生活習慣指導などを行うことで、健康の維持・増進につなげようという取り組み。保険者にとっては中長期的に医療費の抑制につながる一方、薬局では新規顧客の開拓や調剤報酬以外の新たな収益源の確保などが期待されている。始まったばかりで、効果はまだ測れないが、保険者からは「生活習慣病予備軍や多剤併用の被保険者らを減らすのに、一役買ってもらえるのでは」といった期待の声も上がっている。

HORPでは、まず保険者が加入者やその扶養者らの中から生活習慣指導などの必要があると判断した対象者をピックアップ。プログラム参加薬局で指導を受けるよう促す。指導を希望する対象者は薬局を訪問し、健康の維持・増進のための指導を受けるという仕組み。薬局では保険者のニーズに応じて生活習慣指導や服薬指導、医療費適正化指導などを行い、行動変容を促す。薬局での指導後も電話でフォローを行う。

福岡県では、北九州市を中心に昨年後半から大手化学メーカーの健康保険組合の依頼を受け、同プログラムがスタート。対象となった服薬中の前期高齢者45人のうち、11人が実際に薬局で指導を受けた。

### ●薬剤師の指導で行動が変容

HORPに参加して指導に当たった八幡薬剤師会薬局の大石博美氏は、「前向きな姿勢でない対象者でも、指導によって変化が見られる。アフターフォローで継続的に対象者に関わることで、目標以上の行動を持続できる可能性がある」と話す。大石氏が指導した対象者は1日に10杯以上飲んでいていたコーヒーの摂取量を減らしたり、スポーツジムに通って、毎日、水泳をするようになるなど行動の変容につながったという。

同じくHORPに参加して指導に当たった長田調剤薬局楠木店の脇山弘子氏は、「対象者が毎月処方箋を持ってくる患者さんだったため、指導を希望するのか。すでに症状が安定している患者さんにあらためて指導することはあるのか」という懸念があったが、聞き取りの結果、服薬時間が毎週異なるなどいくつかの改善すべき点が判明。「今回のプログラムによって、より深いコミュニケーションをとるきっかけになった。投薬している状況では生活習慣の聞き取りはなかなか難しいので、何が病気の原因になっているのかを探ることができて良かった」と話す。

### ●薬局の敷居は高くない

一方、健保連の幸野庄司理事は、HORP事業について「生活習慣病予備軍やポリファーマシー（多剤併用）になっている人に、特定保健指導や医療機関に行くように勧奨しているが、行ってくれないというのが保険者の悩み。薬局はそれほど敷居が高くないので、そういうところをうまく活用した事業なのではないか」と期待する。

厚生労働省の「患者のための薬局ビジョン」では、対物業務から対人業務へのシフトが打ち出された。加えて、調剤業務だけでなく、多職種と連携して地域包括ケアの一翼を担うことも求められている。薬局・薬剤師を取り巻く環境が大きく変化する中で、地域住民の健康の維持・増進にどのように貢献できるのかは大きな課題。HORP事業の今後の広がりに期待したい。（山田 宏）